

5 各教科等の指導のポイント

国語

言葉による見方・考え方を働かせ、主体的に課題解決に取り組む授業づくり

授業づくりのポイント

※数字は学習活動の例と対応

- ① 資質・能力の系統性を踏まえて、指導事項の内容を適切に捉え、単元において育成を目指す資質・能力の焦点化を図る。
- ② 児童生徒が話や文章等の言葉に着目して課題を設定し、粘り強く試行錯誤して解決することができるような言語活動を設定する。
- ③ 児童生徒が課題解決に向けて、個で思考・判断・表現する活動と、協働して吟味・検討する活動とを必要に応じて往還できるよう学習過程を工夫する。
- ④ 児童生徒が目的に応じて、学校図書館やICT等を主体的に選択し活用する場面を、学習過程に計画的に位置付ける。
- ⑤ 児童生徒が学びの進捗状況を自覚するとともに、次の学びへつなげることができるよう、自己の学習状況を振り返る場面や視点を適切に設定する。
- ⑥ 目標を達成した児童生徒の姿を具体的に想定して評価規準を設定し、評価場面を精選するとともに、評価した結果を児童生徒の学習改善や教師の指導改善に生かす。

児童自ら学習の進め方を調整しながら、考えの形成を目指す学習活動の例

小学校第5学年 「話すこと・聞くこと」
単元名「提案しよう、言葉とわたしたち」
～事実と感想、意見とを区別して、
話の構成を考える～

◇単元の目標（一部）

言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。
[学びに向かう力、人間性等]

◇学習計画（全6時間）

【第1時】

- 毎日の生活での「言葉の使い方」について課題を挙げ、その解決を図るために提案したいことを考える。
- 説得力のある提案にするため、スピーチの構成の工夫について考え、学習の見通しをもつ。

【第2・3時】

- 提案内容の根拠となる情報を、本やインターネット、アンケート等で集める。
- スピーチメモを作成する。

【第4時】

- スピーチの構成について、スピーチメモの内容を相互評価し、修正をする。

【第5・6時】

- スピーチの練習を行い、撮影した動画を見て修正する。
- スピーチを発表し、感想を伝え合う。

単元における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

<個別最適な学び>

指導の個別化

根拠とする事実の調査や情報収集の方法を選んだり、スピーチの練習を個やペア、グループなど自分に合った学習活動で行ったりする。
教師からの助言を参考にして、学習の改善を図る。

学習の個性化

「言葉の使い方」について、自分が課題だと思ふことを取り上げ、その解決を図るための提案をまとめる。

<協働的な学び>

視点に沿ってスピーチメモを相互評価し、友達のコメントを参考にして、自分のスピーチの構成のよい点や改善点を見いだす。

◇本時のねらい（4/6）

スピーチメモについて相互評価を行い、説得力のある提案になるようスピーチの構成を改善することができる。

◇学習活動

1 本時の学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。

2 スピーチメモについて、次の点に着目して相互評価を行い、コメントし合う。
[構成の工夫]

- ① 「初め」で提案内容を述べ、「終わり」のまとめとずれないようにする。
- ② 「中」で自分の体験や調べた事実を述べる。
- ③ 事実と自分の感想、意見のちがいを明確にする。

3 スピーチメモを修正する。
(児童のスピーチメモの一部)

初め「提案内容」
・流行の言葉は相手を考えて使うようにする。
中「根拠」
・祖母に「推し活」という言葉が伝わらなかつたこと。
・流りの言葉は定着するものもある。
終わり「まとめ」
工夫①について提案とまとめの合わせよう。S太よりまとめを「相手に合わせて言葉を使い分けよう」に修正することにする。

提案とまとめの内容がつながりましたね。更に説得力が増すように、体験の他にも根拠となる事実をクラウドにある資料を参考に書き足してはどうですか。

(児童の振り返り)

先生のアドバイスから、「国語に関する世論調査」(文化庁)の「推し」という言葉を使う年代別の割合の調査結果を根拠に加えることにしました。提案内容との結び付きが分かりやすくなって、説得力が出ると思います。

◇評価規準

粘り強くスピーチの構成を工夫し、学習の見通しをもって、自分の考えを提案しようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】(スピーチメモ・振り返りの記述)

<協働的な学び>

・デジタル付箋機能を用いてコメントを伝え合う際は、対話が成立し学びが深まるよう、コメントの意味を理解しているかを確認したり、コメントを読んだ後に、双方向でのやりとりをする場を設定したりするなど手立てを工夫します。ICT ③

<個別最適な学び>

・スピーチの提案内容の根拠となる資料をクラウドに保存しておき、児童が自らの学習状況に応じて参照し、必要な情報を活用できるようにします。ICT ②

・児童の学習状況を把握し、価値付けたり必要に応じて改善を促したりすることにより、児童一人一人の資質・能力の確実な育成を図ります。ICT ⑥